アメリカとのつきあい

一八五三年の米国ペリー提督の浦賀来航を受けて、同提督と徳川幕府を代表する林大学頭復斎との間で、翌一八五四年（嘉永七年）三月三十一日に日米和親条約が署名されたのが日米修好の始まりである。昨年二〇〇四年は日米修好百五十周年を記念して、日米修好百五十周年記念式典が条約署名の地、神奈川村（現在の横浜）で挙行された。

日米両国間には太平洋戦争という不幸な時期はあったものの、幾多の厳しい試練を乗り越え、今日では世界のなかの日米同盟として、世界の平和と安定のために重要な役割を果たしている。日米の同盟関係の意義が再評価されつつある折から、百五十年に及ぶ交流の軌跡を振り返るのみならず、歴史の教訓を生かして今後の日米関係はどうあるべきか、次の世代に日米関係の重要性を如何に伝えていくべきかに心しつつ、日米関係の一層の増進をはかることが、日米修好百五十周年記念委員会会長を勤めた私が目指したところであった。

レーガン米大統領に離任の挨拶をする大河原駐米大使
（ホワイトハウス執務室、1985年3月）